



佐渡金銀山 未来に残そう世界遺産

金銀山よもやまばなし(14)

旧中尾変電所

旧中尾変電所は、相川の中心街から大佐渡スカイラインを妙見山に向かって登り、間ノ山地区の第三駐車場と大きな鉱倉所を過ぎ、濁川に架かる石造アーチ橋の左岸たもとにあります。木造平屋建て切妻造セメント瓦葺建物で、河岸に沿って立地し、東を正面として建てられています。現在は倉庫として



の使用を主としていますが、内外部、特に西側妻面に残された碁子(電線を支持し、かつ電流が漏れないようにするために、支柱に取り付ける陶器製・合成樹脂製の器具)ノップと電柱が変電施設であった面影を残しています。

明治45(1912)年、相川の町から約13km離れた戸地地区(当時は北海村)内の戸地川で、自家用電気事業変更(戸地水力発電所)の工事許可を得、本格的な水力発電所の工事が着手されました。工事の完成は大正4(1915)年で、5月に一部使用許可、9月2日には使用許可を得ています。10月3日には落成式が行われ、11月24日に竣成しました。電柱290本を用いて、戸地から相川までの2里33町(9.15km)余りの距離を電線でつなぎ、送電を行いました。

高圧線で送られた電気は、相川間ノ山の中尾変電所で電圧を下げ、すでに完成していた北沢火力発電所の線に接続され、ここで更に200Vに下げて金山の諸施設に利用されました。中尾変電所の建築年代を詳細に記録する資料はありませんが『三菱社史』には大正14(1925)年の工事竣成に関する記述

において、水路・鉄管・発電機・電柱等、各種工事内容と共に「相川間ノ山に変電所設置」とあり、同工事に含まれた内容であったことがうかがえます。つまり、中尾変電所は自家用電気事業変更(戸地水力発電所)工事の一環として建設されたものであります。なお、同資料

には大正2(1913)年に自家用電気事業変更(戸地水力発電所)工事において変電所の上屋が完成されたことが記録されています。どこに建てられた変電所であるか詳細は不明ですが、この中尾変電所の上屋とみて間違いないでしょう。上屋は先行して完成しましたが、実際に変電所として機能し始めたのは戸地発電所が稼働して送電が開始された大正4年と考えられます。旧中尾発電所の建物は、上屋の建築が大正2年、竣工および稼働開始が大正4年と考えられます。平面、小屋組、構造には機械設備を収める上屋として、表現意欲を感じさせるモチーフや構成が見られず、実用性を追求した点や、当初仕上げ材としてのセメント瓦やセメント板が残されている点に、近代工場建築

としての特徴を見ることができます。

また、このような近代工場建築においては、機械を稼働させる電気が存在が必要不可欠であることはよく知られています。変電施設は発電された電力を一定に供給するため、発電施設と共に重要な役割を担う建物といえます。

特に近代佐渡金銀山の鉱山施設において、中尾変電所は大規模工事であった戸地発電所建設計画の一環として建設された点において、同発電所と一連で見るとべき施設といえるでしょう。中尾変電所は数多く存在した鉱山を陰で支えた施設として、残存する変電所建築としては唯一の建物で、貴重な遺構といえます。数年前までは建物の前後、正面右側(建物脇北側)に碁子ノップが多数見られ、外観からも変電所施設としてすぐ理解できましたが、現在は西側に残るだけで寂しい思いをしています。

佐渡金銀山室 ☎74-3115

新穂歴史民俗資料館の 休館期間について

今年度の12月～2月までの3か月間は休館となりますのでお知らせします。

詳しくはお問い合わせください。
問い合わせ先

教育委員会新穂事務所

☎22-2170